



65  
まいん

すみともくらぶ  
住友倶楽部



住友倶楽部全景

モダンな風情を彩る  
昭和の迎賓館

すみともくらぶ  
住友倶楽部は、昭和11年(1936)2月1日に竣工されました。

関連企業の福利厚生施設として計画されたもので、コミュニケーション及び迎賓館的な場として活用されてきました。

その利用者は住友の社員と家族など関係者に限られており、厳格な礼儀、規則の遵守が課されていました。

食事、談話、会議、読書、囲碁、撞球、理髪、入浴などの諸施設が整い、主として昼間に利用されていました。

さらに、出張してくる役員や社員などのことも考慮して、会食メニューとしては非常に吟味されたフランス料理などが用意されていました。

広い前庭に面し、棟から車寄せの軒先まで葺き落とされた瓦葺の大屋根は、いかにもおおらかで、クラブハウスらしいゆとりと風格が感じられます。

内部に入ると右側に大きなステンドグラスがはめ込まれており、柔らかな色彩とデザインが訪問者を歓迎してくれます。



ステンドグラス



昭和の雰囲気が漂う大ホールと板張りの廊下



藤棚のあるテラス

応接間を兼ねている広いホールは、当初社交室と大食堂の2室に設計されていましたが、1室としての使用も考えていたようです。

全体を平天井で覆いながら、社交室の一部を吹きぬくなど、むしろ大広間にふさわしい天井構成となっています。また、高さが、約2.7メートルもある大きな開口部を介して、藤棚のあるテラス越しに庭園が広がっています。

なお、昭和29年の失火で、当初あった2階の一部が取り除かれています。

